

## 挨拶（案）

この度は、日本武道館のご尽力により、「日本とニュージーランドを結ぶ武道文化交流事業」が開催されるにあたり、心よりお慶び申し上げます。

新型コロナウイルス感染症の影響により、武道大会が中止となったり、対面での稽古を控えなくてはならなかったり、武道を実践する皆さまにおかれましては、様々なご苦勞があったのではないかと拝察します。指導者の皆さま方、鍛錬を継続してこられた方々に、あらためて敬意を表します。

昭和39年（1964）の東京オリンピック競技大会は、日本及びアジア地域において初のオリンピックで、柔道が正式種目になり、その会場として日本武道館が建設されました。そして、57年後の2021年、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会において、追加種目として空手道が選ばれ、日本武道館において、柔道とともに空手道の競技が行われました。無観客試合などコロナ禍の様々な制約を乗り越え、無事に大会が遂行されたことは素晴らしいことでした。また、ニュージーランドからも、女子空手形選手が出場され、健闘されたことをここに称えます。また、コロナ禍を乗り越えて全日本合気道演武大会も昨年以来再開されました。関係者のご尽力に対し、心より敬意を表します。

2022年、日本とニュージーランドは、外交関係樹立70周年を迎え、「戦略的協力パートナーシップ」を確立しております。この良好な二国間関係の基盤には、人と人との交流があります。

ニュージーランド、特に人口の三割が集中するオークランドにおいても、日本武道の鍛錬に日々励まれている方は多くおられ、日本とニュージーランドの交流の一翼を担ってこられました。遡ること1960年代より、日本に渡って修行を重ねたニュージーランド人武道家、そして、武道の普及のために、ニュージーランドに渡り、指導を続けてこられた両国の武道家の努力の賜物です。

そこには、互いの文化の魅力に惹かれ合い、人間の尊厳に根差した敬意を示し、共通のルールや作法に基づいて切磋琢磨する努力を互いに積み重ねてきたからこそ、今日の両国のパートナーシップが育まれてきたものと私は信じます。

日本武道館第十代事務局長を務めた故三藤芳生氏は、「武道には無数の道があります。「正しい」道というものはなく、人それぞれの道を正しく歩むのです。そして自分だけの目標を見つけるのです。」と仰っています。両国の武道家が、それぞれの道を進む中で、礼節をもって友情を深めていくこと、それが両国の更なる友好と親善の発展を導くことを願ってやみません。

令和五年十月吉日

在オークランド日本国総領事  
松居眞司